



木更津市緑の基本計画策定懇談会（第2回） 2011.10.05

## 資料－4 基本理念・基本方針

目次

1. 基本理念	1
2. 緑の将来像	1
3. 基本方針	2

# 1. 基本理念

## ■事務局素案

もり さと うみ ひと  
「森」・「里」・「まち」・「海」そして「人」がおりなす緑の都市：きさらづ

### <提案趣旨>

木更津市の特徴である4つのゾーンの多様なみどりを、市民・企業・行政が協働して守る、結ぶ、創る、育むことを目標とする。

# 2. 緑の将来像

※委員会、懇談会の検討をふまえ、『緑の将来像図』を後日作成する。

市民・企業と行政が共通認識をもって、緑のまちづくりを進めて行くことができるよう、将来（20年後）の本市の緑のあるべき姿を「緑の将来像イメージ」として示す。

## きさらづの森・里・まち・海の『都市の基盤の緑』が守られている。

- ・ 東部丘陵の真理谷や鎌足、笹子などの「森」をはじめ、小櫃川流域の田園地帯と盤津干潟までの水系に守られた「里」、「海」の緑といった「都市の基盤」となる緑が守られている。
- ・ 「森」「里」「海」に囲まれ都市の生活エリアである「まち」にもしっかりと基盤の緑が形成されている。

## 環境の緑、生き物の緑、生活の緑まで『多様な緑』が広がっている。

- ・ 東部丘陵地帯の針葉樹・照葉樹・夏緑林や田園地帯に広がる水田・畑・蓮田・ため池、小櫃川など河川地帯に広がる自然堤防の緑や川原、湿地、盤津干潟といった一次・二次的自然の緑が生活周りの景観を豊かにしている。
- ・ 多彩な緑の存在が、多様な生物に生息環境を提供し、環境と共生する木更津の都市の基盤となっている。
- ・ 公園・街路樹はじめ公共公益施設の緑ばかりでなく、企業がつくる緑、市民が守る生垣、巨樹古木から生活に密着した庭の緑まで、多様な緑が街に広がっている。

## 歴史に育まれた緑と新たな都市の緑が一体となって『風格のある都市』になっている。

- ・ 現代の都市構造の基盤となっている、近世の木更津の都市構造や神社仏閣に残る緑が、市民の財産として再認識され守られている。
- ・ 太田山、請西地区台地区、長楽寺一帯に連続して残る市街地の背景をなす緑が、永続性のある緑として市民の宝となっている。
- ・ 既存の市街地には市民自慢の街路樹が大きく育ち、豊かな緑が形成されるとともに、金田などの新市街地にも「都市の顔」となる緑が創出されている。

## 身近な緑が確保され、安全・快適に暮らせる『やすらぎのある都市』になっている。

- ・ 歩いて行ける範囲に公園や緑地が設けられ、子どもたちの遊び、高齢者の憩いやコミュニティの場として活発に利用されている。
- ・ 公園や緑地は、バリアフリーやユニバーサルデザインが徹底され、誰もが安心して安全に過ごしている。
- ・ 防災や緊急時の避難場所などに役立つ公園をはじめとするオープンスペースが市内各所に適切に配置され、万が一の災害に対する備えが整っている。

## 行政・企業・市民がつくる『持続可能な協働の都市』になっている。

- ・ 企業や市民がともに都市の緑づくりに積極的に参加している。
- ・ 子どもから大人まで多くの市民が地域資源を生かした環境学習活動や風土に根ざした地域の暮らしを学び持続可能な社会に向けて選択・行動・参画できる人材が育っている。
- ・ 山の緑も里の緑も庭の緑も、市民みんなが大切に、愛着を持って、ともに緑を守り、育み、創り出している。

### 3. 基本方針

#### (1) 緑を守る；未来にわたって緑を確かな存在に

##### 1-1 きさらづの森・里・海の“基盤の緑”をまもり活かす

木更津市域東部の丘陵地帯の森、小櫃川とその沿川に広がる田園地帯、小櫃川河口付近一帯に広がる盤洲干潟をはじめとする海浜を木更津市の基盤を形成する緑と位置づけ、将来にわたってまもり活かす。

###### ○きさらづの「森」の保全・活用

- ・「真里谷城址・城山神社・少年自然の家等一帯」「いっせんぼく・コスモスロード・古墳の森・妙泉寺・地藏堂藪化石帯等一帯」「草敷・下郡の観光農園等一帯」「鎌足の矢那川・谷津田・ため池、集落景観」などにおける森林の良好な維持・継続に資する保全・活用施策等

###### ○きさらづの「里」の保全・活用

- ・「中郷の水田景観、有吉寺、観光農園等一帯」「長須賀の蓮田、金鈴塚古墳、高柳銚子塚古墳等一帯」における農業への市民の理解の向上に資する施策、耕作放棄地の活用方策等
- ・「木更津東IC付近の開発に伴う緑の保全・創出」施策等

###### ○きさらづの「海」の保全・活用

- ・小櫃川下流域～河口～盤洲干潟の環境教育等の場としての活用を通じた保全等

##### 1-2 まちなかの“拠点の緑”と市街地を“囲む緑”をまもり活かす

畑沢～桜井・請西～中尾にかけて蓮担し市街地を囲む緑は、まちを特徴づける緑であり、市民に親しまれる良好な緑として保全・活用を図る。

###### ○太田山公園と桜井・請西地区の緑の拠点形成

- ・木更津の顔となる太田山公園の活用の推進、市街地に残る貴重な緑地である請西地区の積極的な保全・活用、2つの緑地の木更津市のシンボル緑地としての位置づけ

###### ○市街化区域に隣接する台地の緑の保全・活用

- ・木更津の市街地を囲む緑の積極的な保全、ネットワークの形成

##### 1-3 地域に“点在する特徴ある緑”をまもり活かす

市内各所に点在する丘陵を刻む谷津田、集落の屋敷林や生垣、地域の人びとが拠り所としてきた社叢林等々、これまで育まれてきた優れた緑の資源を顕在化させ、郷土の誇りとして守り、活かす。

###### ○暮らしに身近な緑の保全・活用

- ・真里谷や鎌足等の谷津田、屋敷林、良好な生垣等

###### ○歴史・文化資源と一体の緑の保全・活用

- ・緑の良好な寺社境内地や社叢林、巨樹・古木、緑と一帯の古墳・史跡、道標等

###### ○水辺と緑の保全・活用 等

- ・矢那、伊豆島等のため池、畳ヶ池などの生物の生育・生息環境、環境学習に資するビオトープ等としての整備、管理

#### (2) 緑を結ぶ；どこでも緑を身近に感じるまちに

##### 2-1 森・里・まち・海を結ぶ“みず”の機能を発揮する

小櫃川、矢那川などの河川は、水辺が持つ生態系ネットワークや都市気象の緩和効果、潤いのある景観形成などの諸機能発揮させるため、河川空間の機能強化を図る。

###### ○「田園空間軸」としての小櫃川の河川空間の保全・整備

- ・自然堤防、河川敷植生等の保全、
- ・多自然型護岸、親水護岸、水辺を楽しむ拠点空間整備
- ・郷土種による河川緑化や並木植栽等による緑の歩行空間・サイクリングネットワークの形成
- ・環境学習の場づくりの推進
- ・周辺の緑の資源との連携 等

###### ○「水と緑と歴史の文化軸」としての矢那川・武田川の河川空間の保全、整備

- ・郷土種による河川緑化や並木植栽等による緑の歩行空間・サイクリングネットワークの形成
- ・周辺のみどりの資源との連携 等

##### 2-2 森・里・まち・海を結ぶ“みち”の緑を充実する

市域の南北・東西を結ぶ主要道路は、道路沿いの緑地や街路樹が持つ生態系ネットワークの形成、都市気象の緩和効果等の発揮、快適な歩行空間や避難ルートの確保など、道路空間の充実を図る。

###### ○街路樹の整備・管理

- ・木更津市の顔となる木更津港～木更津駅～太田山公園の街路樹の育成
- ・既存の街路樹の適正な管理、良好な街路樹の整備 等

###### ○「水と緑と歴史の文化軸」としての県道、矢那川沿いの整備、管理

- ・木更津港～真里谷城址の緑の歩行空間・サイクリングネットワークの形成
- ・周辺のみどりの資源との連携 等

##### 2-3 森・里・まち・海を結ぶ緑の“見晴らし”を顕在化する

森ー里ーまちー海を視覚的に結ぶ見晴らしを基本的な景観軸として据え、眺望点から見るまちや森や里等を意識した緑の保全、育成を図るとともに、市民に対し“見える緑の存在”への関心を高めていく。

###### ○見晴らしポイントの顕在化、安全なアクセス整備

- ・中の島大橋、太田山公園、真里谷城址展望所など

## (3) 緑を創る；市民が誇れる美しい緑の都市へ

### 3-1 緑の拠点となる公園緑地を拡充し、緑を実感できる都市を形成する

緑とオープンスペースの核であり、市民の休憩、散策、観賞、遊戯、運動等のレクリエーション機能をはじめとして、防災、都市気象の改善、生物の生育・生息、景観形成等の機能をもつ公園緑地の整備充実を図る。

- 土地区画整理事業にて確保した公園予定地の早期整備
  - ・請西東地区3箇所、請西南地区5箇所、羽鳥野地区5箇所、港南台地区2箇所、その他地区4箇所 合計19箇所
  - ・現在、土地区画整理事業施行中である金田東地区、請西千束地区については、早期供用開始に向けて、施行者と協議中。
- 公園の安全・安心対策の実施
  - ・老朽化した公園施設の更新（遊具、照明灯、フェンスなど）
  - ・便所・園路等のバリアフリー化、高齢者向け遊具の設置など
- 新規公園配置の検討
  - ・既存ストックの活用による都市公園整備の検討
  - ・総合公園、運動公園等大規模な公園の検討
- 公園整備方針；二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減対策に資する芝張りや植栽といった広場型公園の整備

### 3-2 質の高い緑を創出し、風格のある都市を形成する

まちのエリアでは、建築空間やオープンスペースと一体となって質の高い緑の創出を図り、「国際的な研究開発都市」「広域の交流拠点都市」の名にふさわしい風格ある景観形成を目指す。

- 中心市街地の質の高い緑の創出と空間の高質化
  - ・中心市街地の活性化に資する駅前～木更津港一帯の緑の創出による潤いのあるまちづくり 等
- 港湾空間における親しみの持てる空間形成
  - ・公園等における港を楽しむ空間形成
  - ・土地利用転換に際しての民有地緑化の推進 等
- 新市街地における緑化の推進、民間による緑地管理、等
  - ・金田地区等における質の高い緑空間の創出による高付加価値化
  - ・民有地における緑化の誘導 等

### 3-3 暮らしの身近に緑を創出し、快適なまち並みを形成する。

公共公益施設から民有地まで、身近な空間を利用したまちなかの緑の創出により、良好な都市環境と快適なまち並み形成を図る。

- 公共的空間の緑化推進
  - ・公民館、運動施設等の公共公益施設、駅前空間等の緑化推進、良好な管理 等
- 民有地の緑化推進
  - ・ベランダや生垣等、民有地の接道部など、暮らしの場面での緑化の誘導、支援 等
- 空地・未利用地の緑の空間としての活用促進、地域管理
  - ・コミュニティガーデン等による地域コミュニティの醸成 等

## (4) 緑を育む；市民との協働で緑豊かなまちに

### 4-1 地域の緑の価値を学び、愛着を育む

市内各所に存在している多様な緑に関する情報を発信し認知度を高める。これらのさまざまな自然資源や緑と一体となった歴史・文化資源を、市民の環境学習、郷土学習などの場として活用することを通じ、愛着を育てていく。

- 緑の資源を活かした環境学習、郷土学習の推進
- 公園等を活用した緑の普及に関するイベントの展開
- 緑の大切さなどに関する各種情報の発信 等

### 4-2 多様な主体が参加し、緑を育む

市民団体等による公園等の清掃、干潟や里山の保全等の活動の継続に向けた支援を行う。また、さまざまな緑のまちづくりへの市民参加の拡充を図るための体制を整える。

- 市民団体等による公共空間における清掃活動や里山等保全活動の継続支援
- 市民参加による公園づくり（計画から管理まで）
- 緑の保全・創出・活用に意欲のある市民が参加しやすい仕組みづくり
- 市による認定、顕彰等による市民の活動意欲の向上 等